

(抄録)

研究課題名：クローズドスキル系競技とオープンスキル系競技のアスリートの認知機能に関する比較研究

研究代表者名：高井秀明

本研究では、クローズドスキル系競技とオープンスキル系競技のトップアスリートの認知機能を比較し、競技への適応性を認知機能から検討した。調査対象者のアスリートは、大学生 15 名（クローズドスキル系競技 10 名，オープンスキル系競技 5 名）であった。クローズドスキル系競技としては、体操系競技と標的系競技を選定し、オープンスキル系競技としては格闘系競技を選定した。体操系競技の調査対象者（男性 4 名，女性 1 名）は 19.80 ± 1.10 歳，標的系競技の調査対象者（男性 2 名，女性 3 名）は 20.0 ± 1.00 歳であり，格闘系競技の調査対象者（男性名，女性名）は 20.40 ± 1.34 歳であった。なお，調査対象者の競技レベルは，競技への適応性を考慮する目的で，全国大会ベスト 8 以上の競技成績をこれまでに有するアスリートであった。なお，本研究では，精神医学や臨床心理学の分野で使用されている，日本版 WAIS-III 成人知能検査を利用し，認知機能を測定した。その結果，クローズドスキル系競技のアスリートはオープンスキル系競技のアスリートよりも，WAIS の全検査 IQ，言語性 IQ，動作性 IQ の 3 つの IQ をはじめ，言語理解（VC），知覚統合（PO），作動記憶（WM），処理速度（PS）の 4 つの群指数の値が高かった。本研究においては，この結果の原因帰属について追究することはできないため，引き続き，他の競技のアスリートのデータを収集し，様々なアスリートの認知機能の特徴を明らかにしたい。先には，クローズドスキル系競技やオープンスキル系競技に属するアスリートの固有の特徴や共通の特徴を認知機能から評価し，それぞれのアスリートに応じたコーチングの留意点が提案できるよう研究を推進したいと考えている。